

湯田温泉

湯田温泉は、15 世紀に始まった温泉であり、白狐が見つけたと言われています。山口の町の中心にある湯田温泉地区の温泉には、7 つの源泉から温泉水が注がれています。アルカリ性の軟水には、傷や病気を治療する効果があると言われており、入浴後の肌をすべすべにするとして知られています。ホテル、公衆足浴場、温泉カフェでこの若返りの水を満喫することができます。

伝説によると、足先に傷を負った白狐が小さなお寺の境内にある池に足を浸けている姿が目撃されました。その狐は毎日やって来て、1 週間すると足先の傷が治っていました。町の人たちはその狐の回復に興味をそそられました。池を確認してみると、池の水が温かいことが分かりました。そこで、池の底を掘り起こしてみると源泉が湧き出て、薬と癒しの仏陀である薬師如来の像が現れました。数百年をかけて湯田温泉は人気の温泉町になり、この地域に富と発展をもたらしました。白狐と言えばこの温泉を表すようになり、この地域一帯では狐のモチーフが用いられ、看板や、像、ラテアートとしてあちこちで見ることができます。湯田温泉地区にあるマンホールの蓋には、伝説のシーンを描いたデザインがカラーで描かれています。

湯田温泉内のほとんどの宿泊施設には入浴設備があります。最も古い設備のいくつかは江戸時代（1603 年–1867 年）から始まったものであり、徳川幕府打倒の指導者であった西郷隆盛（1828 年–1877 年）などの有名な歴史上の人物をもてなしてきました。通常、ホテルの宿泊客用となっていますが、いくつかの宿泊施設では宿泊客以外にも有料で入浴設備の利用を許可しています。湯田温泉地区の足湯は通常無料で、誰でも利用できるようになっています。温泉カフェ兼案内所「狐の足あと（文字通り、狐の足跡）」など合わせて 7 か所で、少額の料金で足を浸けながら、コーヒーを味わう、または地酒を楽しむことができます。